

2026年6月7日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28:19-20)

聖霊降臨節第3主日

朝第1礼拝 9:00~10:10

朝第2礼拝 10:30~12:00

<神の招き>

前奏 ① 装いせよ、おお愛する魂よ
② 今、我ら聖霊に願いて
ブラームス ヴァルター

招きの詞 詩編103:1~5

交読詩編 69:17~22

讃美歌 6

<神の言葉>

聖書 創世記14:17~20
(旧約 聖書協会共同訳 17頁)
へブライ人への手紙5:1~10
(新約 聖書協会共同訳 396頁)

祈禱
讃美歌 51
説教 「キリストの涙」
熊江秀一牧師

祈禱
黙想
讃美歌 291

<神への応答>

聖餐
讃美歌 78
信仰告白 日本基督教団信仰告白
献金
主の祈り
宣教報告②

頌栄 24

派遣と祝福
後奏 ① 我らいま聖霊に願う
② 来ませ、創造者なる聖霊よ
ブクステフーデ ツァッハウ

宣教報告①

夕礼拝 18:00~19:10

<神の招き>

前奏 来たれ、聖霊よ ツァッハウ
招きの詞 詩編103:1~5
交読詩編 69:17~22
讃美歌 350

<神の言葉>

聖書 出エジプト記20:1~6
(旧約 聖書協会共同訳 117頁)
ルカによる福音書8:1~3
(新約 聖書協会共同訳 116頁)

祈禱
讃美歌 355
説教 「恵みへの応答」 佐藤潤伝道師
祈禱
黙想
讃美歌 91

<神への応答>

聖餐
讃美歌 78
信仰告白 日本基督教団信仰告白
献金
主の祈り
宣教報告
頌栄 25
派遣と祝福
後奏 主はわが命 パツヘルベル

今週の御言葉

キリストは、人として生きておられたとき、深く嘆き、涙を流しながら、自分を死から救うことのできる方に、祈りと願いとを献げ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました。キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみを通して従順を学ばれました。
(へブライ人への手紙5:7~8)

次週の礼拝(6月14日) 子どもの日・花の日合同礼拝

① 9:00、② 10:30

説教①「荒れ野の誘惑」②「われらをこころみにあわせず」
熊江秀一牧師

申命記8:2~3、マタイによる福音書4:1~11

交読詩編 こども交読文(2) 詩編8編より

讃美歌①7、53、284、24

②351(こども8)、471(こども119)、533(こども120)、
24(こども25)

☒ 18:00

説教「み言葉の種が実るとき」
佐藤潤伝道師

詩編119:105~112、

ルカによる福音書8:4~15

交読詩編32:1~7

讃美歌53、343、536、25

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 子どもの日・花の日合同礼拝の為に
4. 地域会の為に
5. 牧師・伝道師の為に
6. 関連幼稚園（大宮、植竹、白百合）の為に
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、イラン、世界の平和の為に
8. 病気の兄姉の為に

*関東教区お祈りカレンダー 三条教会 見附教会 栃尾教会

◇先週の説教より「互いに赦し合う」エフェソの信徒への手紙4：17～24、イザヤ書63：7～10 佐藤潤伝道師

洗礼を授かり「古い人を脱ぎ捨て、新しい人を着た」キリスト者の生き方を具体的に教えている。その中心にあるのが「互いに赦し合いなさい」という勧めである。これは人生の知恵や教訓ではなく、キリストによって新しく造られた者の生き方そのものである。その生き方は、まず「偽りを捨てて真実を語りなさい」と勧められている。真実とは事実の伝達ではなく、キリストにおいて示された神の救いの真理に生きること。なぜなら私たちは互いにキリストの体の一部であり、偽りは教会の一致を損なうからである。次に、怒りを抱き続けてはならないと教えている。怒りを放置することは悪魔に付け入る隙を与え、教会を破壊する原因となるから。また、盗みをやめて働き、自らの手で得たものを必要としている人に分け与えるよう勧められている。人を傷つける言葉ではなく、聞く人を励まし、教会を建て上げる言葉を語ることが求められている。

さらに「恨み、憤り、怒り、わめき、冒涇、一切の悪意と共に捨て去りなさい」と勧められている。聖霊なる神を悲しませるからである。相手を赦すことができるのは、「神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださった」から。神に赦していただいている事実、キリストの十字架の死を知ることによって、神から受けた赦しと恵みに応えて、親切で憐れみ深い者に変えられる。互いに神に赦されているからこそ、互いに赦し合う事ができる。

「互いに赦し合う」という愛の交わりは、キリストの体である教会においてこそ実現する。教会の交わりの中で互いに恵みを分かち合いつつ生きるという私たちの信仰生活そのものである。聖霊なる神と共に喜びを味わい、終わりの日に至るまで主の教会を共に建て上げ、神の栄光を現していくのである。

*礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、☒は夕礼拝。